

9月定例会 一般質問

村政を問う

一般質問とは 定例議会において、各議員が住民の代表として行政全般にわたり村当局の考え方や疑問をたずさることです。

また、議員にとって政策の見直しや政策を提言する重要な活動の場です。

今回は、6人の議員が登壇しました。

質 問 者	質 問 事 項	ページ
せき ね 関根 猛	① 平田村の人口減少防止策は	9
	② パークゴルフ場の今後の改修予定は	
おお た きよ み 太田 清実	① 主要道路間を結ぶ村内道路の拡張計画は	9 ～ 10
	② 道路の未完成区間について	
ね もと さだ お 根本 定雄	① 旧小平・蓬田中学校施設廃校後の取り組みは	10 ～ 11
	② 村道逆水論田線の今後の見通しと一部区間が舗装になっている件について	
たか はし なな え 高橋 七重	① 人と動物（犬・猫）が幸せに暮らすために	11 ～ 12
	② 保険証廃止後も医療保険は受診できると周知すべき	
	③ 野外ステージの必要性を再度問う	
さん ぼん まつ かず よし 三本松和美	① 旧小平中学校の多目的利活用のため新ルートの整備は	12 ～ 13
	② パークゴルフ場への新たな進入道路整備は	
	③ 加工場整備の必要性について	
	④ J R 水郡線と磐越東線の存続は	
よし た よしたか 吉田 喜尚	① 生産組織の育成の進捗は	13



関根 猛 議員



詳しくはこちら

Q 平田村の人口減少防止策は

- ① 若年層の転出防止と移住定住促進のため、子育て支援、定住促進住宅取得補助金、移住支援、結婚新生活支援や、地震に強い平田村の良さをまとめたガイドブックを作成し、村内外に配布及び発信することも有効と思うが、ガイドブック作成の考えはあるか。
- ② 村内の事業所に勤務し、村外に居住している方が多くいるものと思われるが、その方たちへの移住定住を促すような行動はしているか。

A 支援事業をPRしていく

▼企画商工課長

- ① 今回、移住定住に特化したパンフレットの作成費用を補正予算に計上している。
 - ② ホームページや広報ひらたにより、村の移住定住に関する支援事業を広く情報発信し、移住希望者に移住先として本村を選んでもらえるよう取り組んでいる。
- 村外から本村に通勤の方に特定したPRは行っていないが、パンフレットができれば、村内事業所にも配布し、本村の支援事業についてPRしていく。

Q パークゴルフ場の今後の改修予定は

- ① 公式のパークゴルフ場とまではいかなくても、雑草を除去し、起伏や障害物及びOBゾーン等を設け、郡内の大会ぐらいは開催できるように整備すべきと思うが、今後整備改修の予定はあるか。
- ② 現トイレは簡易な水洗トイレであり、匂いや汚れが見られ衛生的でないため、正式な水洗トイレに更新する予定はあるか。

A コース環境の整備に努める

▼教育課長

- ① OBゾーンの設置や樹木などの障害物の配置により、飽きないコースとなるよう改修を続けていく。張芝を含めた芝の育成、定期的な芝刈り、除草剤散布等による雑草の除去などの維持管理のメンテナンスも引き続き行い、年々改良していくよう努めていく。
 - ② 以前の水洗化されていない状態だった時と比べ、少し改善されていると思うが、簡易水洗トイレへの改修なので、完全な水洗トイレとは違い、衛生面で劣ることは事実。
- また、冬期間は、凍結防止のためトイレ使用を中止しているので、おだいら交流館トイレの案内表示をして対応している。
- トイレの再整備等については、コース整備の進捗状況や利用状況を鑑みながら検討していきたい。



太田 清実 議員



詳しくはこちら

Q 主要道路間を結ぶ村内道路の拡張計画は

国道349号芝山橋坂方面から、あぶくま高原道路平田西インターを結ぶこの区間を拡張することにより、現在のルートを遙かに凌ぐ利便性と経済効果が増すと見込まれる。

村外へ通勤する方たちにとっても通勤の短縮にもつながり、交流人口を増やそうと考えるならば尚更検討すべきルートと思う。拡張計画はあるか。

A 計画的に進めていく

▼産業建設課長

- ① 拡幅改良工事による道路交通網の整備が依然として必要なことから重要度を精査し、計画的に社会資本整備総合交付金事業を活用しながら整備を進めている。

議員お質しのルートとして、村道下田高田線、村道1281号線、村道草場清水線が該当すると思われるが、村道1281号線（小平字糯田地内から北方字清水地内）については、本年度から道路詳細設計業務を委託し、改良拡幅を次年度以降から順次予定している。

しかし、社会資本整備総合交付金事業の道路改良枠が非常に少なくなっている。限られた国の補助枠内での道路事業となるが、有利な起債等も活

用しながら、計画的に進めていく。

Q 道路の未完成区間について

村内にはまだ舗装にならない道路や、以前は通れたが今は通れない等の未完成道路があるが、現在も生活道路の要素が大きいと思われる。

毎年、確認や精査は行っているのか、住民対応等も併せて伺う。

A 生コン支給事業で対応していく

▼産業建設課長

未舗装道路（村道認定道路）について、日常の道路パトロールの中で現状を把握するとともに、必要に応じて碎石敷均しや除草による路面の維持に努めている。

議員お質しの未舗装道路は、特定の地域の方々が利用される道路でもあり、道路事業の優先度から村による整備は困難である。

本村では、地域住民参加による協働のむらづくりの一環として、生コン支給事業による道路舗装整備がコミュニティ活動としても定着している。

住民対応として、地域の要望に応じた生コン支給事業により、対応をしていく。



根本 定雄 議員



詳しくはこちら

Q 旧小平、蓬田中学校施設廃校後の取り組みは

両中学校の廃校から8年余りが経過し、廃校となった施設はどうするのか多くの村民も関心を持っている。また、他の議員からも様々な提案等をされてきたが、いまだ先が見えない。

① なぜ利活用ができないのか。

② 利活用できない場合、取り壊すべきと思うが。

A 年度内を目標に検討する

▼企画商工課長

- ① 両校舎は、直営で使用するにしても、民間に貸し出すにしても、改修には多額の費用が見込まれることから、なかなか利用方法が決まらない状況。
- ② 利活用できない時は取り壊すことになると思う。村の財政状況を考慮しながら進めることになる。

Q 年数が経ち劣化してくると利活用もできなくなってくる。きちんと計画を立て予算化し、取り壊すべきではないのか。

再 A 総務課長

計画的に基金への積み立てを行い、公共施設等の改修や解体事業を実施する場合には、基金の取り崩しをしたいと考えている。

再 Q 年度内に取り壊しをするのかしないのか、そこをはっきりさせていただきたい。

再 A 企画商工課長
年度内を目標に検討する。

Q 村道逆水論田線の今後の見通しと一部区間が舗装になっている件について

逆水論田線は、住民及び利用者は、一日も早い完成を望んでいる。

① 逆水論田線の今後の見通しは。

② 一部の区間が舗装になっているが、なぜ開通できないのか。

③ 一部の区間が舗装になっている脇の空き地の利活用と整備について、どのように考えているか。



A 財源を確保し計画的に事業を執行する

▼産業建設課長

① 次年度以降は、沼田地区の舗装完了済未供用区間の接続工事を施工し、舗装改良部分を供用できるように進めていく。

② 大雨の際、村道への土砂流出が幾度となく起きてしまい、その対策として令和3年度から山田地区の工事を施工したため、道路交通の安全確保を優先した工事施工計画となった。

③ 現在は建設発生土ストックヤードとして活用しており、活用が終了した後の利活用については地域の要望に沿った形で検討する。

再Q 通行しないところを何で舗装にしたのか、前後を繋げば通行できる。空き地の環境が悪いので何とかしてほしい。

再A ▼産業建設課長

周辺環境に影響を及ぼすことが無いよう保全管理に努めていく。次年度補助枠の中で接続工事を進めていく。

再Q 予算化し、地域の皆さんが安心して通行ができるようにしてほしい。

再A ▼産業建設課長

社会資本整備交付金事業の道路改良枠が非常に少なくなっており、今後も限られた国の補助枠での道路事業となる。引き続き国・県に要望し財源を確保しながら計画的に事業を執行していきたい。



高橋 七重 議員



詳しくはこちら

Q 人と動物（犬・猫）が幸せに暮らすために

犬や猫をペットとして飼う場合、飼い主は適正な頭数を最後まで責任をもって飼うことが求められている。捨て猫・捨て犬を無くすには、必要以上に産ませないようにすること。避妊・去勢はそのための一つだが、決して安価ではない。そこで、そのための費用を村が助成してはどうか。

A 飼い主の責任で管理を

▼住民課長

社会的責任を十分に自覚し、適正な飼養環境の構築や、管理することが所有者の努めと認識している。

再Q 制度ができたからといってすぐに効果が出るものではないが、安心して飼育するため、または殺処分ゼロを目指すためにも避妊や去勢は必要。

再A ▼住民課長

殺処分ゼロを実現するため、県内でも動物愛護団体や、ボランティアなどが広域的に様々な活動をしており、その中には避妊や去勢手術もある。村としては、それらの活動を支援し、情報提供に努めていく。

Q 保険証廃止後も医療保険は受診できると周知すべき

マイナ保険証を持たなくても、保険証に記載の日付け以降は、新たに「資格確認書」が送付され、これまで通り医療診療が受けられる。にもかかわらず、その事がまったく周知されていない。大事なことは「マイナ保険証を持つが持たないかは個人の自由、任意であること。マイナ保険証が無くても医療保険は受けられる」ことを周知し、正しい情報を知ってもらうことではないか。

A 必要な時に必要な情報を周知

▼住民課長

住民には、村の広報誌・国保利用者への通知・検診結果説明会等で、周知している。



Q 野外ステージの必要性を再度問う

① 工事費1億5千万円の財源の内、半分はデジタル田園国家構想交付金の中の地方創生交付金をこれから申請すること。なぜこの交付金が該当するのか。

② 公募型プロポーザル方式を選んだ理由は。

A 建設を進める

▼企画商工課長

① デジタル田園国家構想交付金は、これまでの3つの交付金が統合され創設された交付金。その中の「地方創生拠点整備タイプ」というメニューで、観光や農林水産業の振興等、地方創生につながる整備事業が該当する。

② 企画力や技術力、業務遂行能力、過去の実績等のほか、公正性、透明性を確保する観点も踏まえ、最も適した設計者を選ぶ方法として採用した。

再Q 本村が今やるべきことは野外ステージを造ることではないと思う。同じ交付金を使うのであればもっとやるべき事業があるのではないか。

旧校舎の利活用について、複数議員から加工場やシェアハウス等「地域の核」になるような提案がされているが、それにこの交付金を充てて利活用しようとは考えなかったのか。

再A ▼企画商工課長

廃校利活用策は、まだ出ていないので、すでに話が出ている野外ステージ建設を進めることにした。



三本松和美 議員



詳しくはこちら

Q 旧小平中学校の多目的利活用のための新ルートの整備は

多目的に利活用するため、旧小平中学校への新ルートによる道路整備を行ってはどうか。

A 校舎の利活用策が決まってから検討

▼企画商工課長

旧小平中学校への新たな進入道路は、校舎の利活用策が決まっていなかったため、今後活用策が決定し、支障が生じる場合に検討する。

再Q 旧両中学校の利活用が必要か、議会で活発に議論を展開してきた。しかも、後期基本計画でも、利活用に関して重点事業として位置づけされている。このままの議論で行くと、村から示さない限りは、前に進まない。村長の考えは。

再A ▼村長

いただいた提言が実現可能かどうか検討しながら進めたい。

Q パークゴルフ場への新たな進入道路整備は

令和4年度に村道整備事業で後川グラウンド侵入路の測量設計を行っているが、道路整備が進まないのはなぜか。

A コース環境の整備が最優先

▼教育課長

パークゴルフ場のコース環境の整備が最優先で、適切な整備時期を判断していく。

再Q 道路工事費はどれくらいか。

再A ▼産業建設課長

道路に関係する工事費は、常任委員会で説明する。
(常任委員会での説明) 後川グラウンド進入路の概算工事費は、約4千万円となる。

Q 加工場整備の必要性について

食品衛生法改正に伴い、個人での加工品などを出荷できない生産者もいる。今までの技術的なノウハウを活かし、新たな雇用や雇用の継続を進めるため、村内の農産物の有効利用のための加工品開発研究、人材育成等、加工場の整備について農業関係者などと検討しては。

A 加工場の利用をどのくらい望んでいるか把握したい

▼企画商工課長

村内の加工場整備は、加工場の利用をどのくらいの方が望んでいるか把握することも必要。産業建設課とも連携し、農業関係者等の意見を聞く。

Q JR水郡線と磐越東線の存続は

JR水郡線と磐越東線とも、学生が通学に利用し地域の足になっている。

- ① 路線の存続問題について、本村も含む周辺自治体とJRが話し合われたことはあるか。
- ② 村民の利用状況について把握しているか。

A 毎年、JR東日本に利便性向上のための要望活動を行っている

▼企画商工課長

- ① JRとの話し合いは、水郡線活性化対策協議会の事務局である石川町を中心に、毎年、JR東日本に利便性向上のための要望活動を行っているほか、JR担当部局との意見交換も実施している。
- ② 水郡線、磐越東線とも高校生の通学利用が主になっている。

村では、高校等通学支援金の申請受付時に利用状況を把握している。

Q 生産組織の育成の進捗は

平田村のいんげん「高原みどり」は、昼夜の寒暖差を生かした鮮やかな緑色が特徴で、大変評判が良いと聞いている。しかし、生産農家は家族農業が多いため繁忙期の人手不足の問題があるとも聞いている。

専業農家にこだわらず、兼業でなら農業を始めたかと思っている人もいると思う。

様々な問題解決のため、また遊休農地対策としても、農地の集積・集約化や農業の団地化が重要であると考えている。

そこで、第5次後期基本計画の中で主要施策として「生産組織の育成」とあるが、その進捗状況を伺う。

A サポート体制の整備を図っている

▼産業建設課長

北屋敷地区、上北方地域の営農改善組合などの集落営農組織に対しては、「平田村地域貢献型集落営農育成・確保支援事業」として、平田村集落営農推進基金から補助金を交付し、地域に貢献する集落営農組織の育成・確保、担い手不足集落へのサポート体制の整備を図っている。

さらに、本年度よりJA及び須賀川農業普及所と連携し「平田村次世代農業経営者育成支援チーム」



吉田 喜尚 議員



詳しくはこちら

要望

これからどんな農業が注目されると思う。平田の米作り、野菜作りに官民一体となって力を入れていただきたい。

を組織し、新規就農者、若手生産者への支援体制を構築することにより、地域一体となった支援の方向性を定め、「新規就農・若手生産者の早期の経営確立」と「新たな新規就農者確保」にも努めている。農業従事者の減少・高齢化、遊休農地対策に対応し、農業振興を図るうえで新規就農者の確保育成、生産組織の育成は極めて重要。引き続き、農業者の声を伺いながら、生産現場の課題を的確に把握し、本村農業の持続的発展に努めていく。

